

沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



目次

1 校長より… グローバル人材の育成に向けて …………… 2	10 =沖縄高専=創立10周年記念式典……………13
2 卒業生へ贈る言葉…………… 3	11 学生の活躍……………14~16
3 卒業にあたって……………4~5	12 学生相談室の一年間を振り返って……………16
4 学年の学生の様子……………6~7	13 世界への扉……………17
5 インターンシップ体験記……………8~9	14 地域連携推進センター……………17
6 就職・進学状況……………10~11	15 学生会より 寮生会より……………18
7 修了生へ贈る言葉……………11	16 後援会会長挨拶……………18
8 専攻科修了にあたって……………12	17 保健室より……………19
9 第9回高専祭……………13	19 平成26年度学生募集結果一覧……………19
	20 平成26年度(前期)行事予定表……………20





グローバル人材の育成に向けて

校長 伊東 繁

世界経済のグローバル化が進展するなか、産業界が求める技術者像は時代とともに大きく変わりました。高専制度が創設された当初は経済発展を支える中堅技術者の育成が求められましたが、近年では国内だけでなく、国際的に活躍できる人材を育成することが強く求められています。本校においても、学生の国際性を高め、産業界の人材需要に応じた技術者教育の充実、改善に取り組んでいます。

文部科学省が実施する平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に、「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」事業が採択され、現在その取り組みが進められています。この事業は九州沖縄地区の9つの国立高等専門学校が連携し、約960社の会員企業を擁する九州経済連合会の支援を得て、海外インターンシップや留学生を対象とした日本国内でのインターンシップを実施するものです。またアジア諸国の教育機関と連携協定を結び、アジアからの研修生や留学生を受け入れ、高専の教員や学生が海外研修を行うなど国際交流活動を推進します。専攻科においては教育プログラムを見直し、単位互換、長期インターンシップ、長期海外研修を行いやすくすると共に、専攻科への秋入学の体制を整え、海外から研修生、留学生を受け入れやすくする取り組みも進めてまいります。

学生諸君には正課の授業のみならず部活動などの課外活動、コンテストへの参加、資格取得、上述の国際交流、海外研修など、あらゆる学校活動に積極的に参加し、何事にも失敗を恐れず挑戦してほしいと思います。学生自身の積極性いかんによって、5年間の成果は大きく変わってきます。限りある時間をいかに有効に活用するか。自らをマネジメントする視点を持つことも大切で、その姿勢が卒業後の長い技術者人生をどうマネジメントしていくかということにつながります。

本校での学生生活を通してそれぞれの個性と能力を大いに伸ばし、新しいことに挑戦し継続的に学ぶ力、時代を切り開く豊かな感性とイノベーション能力を養ってほしいと思います。

また、地球温暖化などの自然環境の問題、資源エネルギーや食糧問題、世界的な経済格差、国内に目を転じれば、国内産業の空洞化、地域経済や固有文化の衰退など、急速なグローバル化による功罪も多くの議論を呼んでいます。これらの課題解決に向けてどう取り組むべきか理解し、広い見識と倫理観を持って、世界の人々とともに持続的な発展、繁栄の実現を目指していけるグローバル人材の育成を目指してまいります。

今後とも本校の学校運営、教育・研究活動に対し、より一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



5 学年学科担任
政木 清孝

機械システム工学科 6 期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。機械システム工学科 6 期生の担任として、無事に卒業式を迎えられたことを心から嬉しく思います。

毎年のように「今年の機械科 3 年生担任は大変だ」と言われて君たちの担任を引き受けて、あっという間に 3 年間の経ちました。刻が経つのは早いものです。担任を引き受けるにあたり、学生の自主性を尊重しながらも学生のためには全力でサポートする裏方に徹しようと心掛けました。また ON/OFF でメリハリを付けようと心掛けたため、気に入らないと思った学生もいたかと思いますが、3 年間で実に 10 人近くの学生がクラスから去ってしまい、この卒業式で全員を卒業させられなかったことは、周りからすれば「担任」として失格と思われるかもしれません。

学級から去っていく学生に対して、面談で必ずこう問いかけてみました。それは自分で決めたことですか？ 全ての学生が晴れ晴れした面持ちで「はい」と答えてくれました。彼らが決して「ドロップアウト」したのではなく、自分の意志で自分の新たな道を切り開いたのだと信じています。これから皆さんには、それぞれの新しい人生が待っています。それは嬉しいこと、楽しいことばかりでなく、様々な困難も待ち構えています。周りの状況を判断して、何をすることが最善かを判断し、困難に

立ち向かわなければなりません。場合によっては正しくない決断をするかもしれませんが、状況判断を繰り返し、柔軟な対応をもって正しいと思う方向へ、自分自身で進路修正の意志決定をすれば良いのです。自分で道を切り開くことは、そのときに起こりうることに對しての責任が生じますが、決して逃げることなく自分を信じて、他人に迷惑をかけること無く前に進んでください。だって、誰のものでもない、あなた自身の人生ですから。

最後になりましたが、君たちの担任になって、研修旅行、高専祭、インターンシップ、体育祭など、楽しい思い出がたくさんできました。体育祭での君たちの本格的なエイサー・演舞は、北谷でのダイブと共に最高の思い出です。ありがとう。今後も沖縄高専の卒業生であることを誇りに思い、自分の信じる道に向かって邁進してください。



5 学年学科担任
知念 幸勇

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは沖縄高専に在学中、様々な体験をしましたが、中でも 3 年次の研修旅行で、沖縄高専では初めての海外研修旅行（2011 年、香港・マカオ、4 泊 5 日）に参加したことは貴重な体験ではなかったかと思いますが、初めての海外研修旅行では、沖縄・日本と大きく異なる街並み、文化に驚き、異なる言語、食事、生活などに触れ、多くのことを学び、次第に海外を身近に感じたことと思います。その体験を経て、5 年生になると、シンガポール、タイ、香港、アメリカへの海外研修や海外インターンシップに参加する学生が沖縄高専では最も多く出たクラスでした。また、シンガポールの Temasek Polytechnic からの短期留学生を、2013 年 5 月～7 月に 2 名、10 月～12 月に 14 名を受け入れ、研究、交流授業、交歓会などを通じて、留学生と最も多く交流したクラスでもありました。更に、4 ヶ月間の東アジア経済圏グローバル技術者育成プログラムで開催された、海外勤務などを体験した企業人による 17 の講義・講演の聴講に参加した学生が最も多かったのも皆さんでした。社会に出てから、将来、外国人の上司、同僚、友人、お客さんと自然に会話し、英文マニュアルを読みこなし、いつの間にか海外出張や海外勤務で、グローバルに活動している自分にふと気づくことがあるかも知れませんが、それは沖縄高専で学んだこうした経験が大きく影響していると思っして下さい。

4 年次の企業インターンシップでは、皆さんが参加したインターンシップ先の 78% は県外でした。これも、沖縄高専のインターンシップでは初めての高い数値です。研修旅行は海外でしたが、インターンシップでは県外企業を中心に積極的にチャレンジした結果だと考えます。県外でも多くのことを学んだと思います。

就職においても、就職希望者の 84% が県外企業に内定しました。内定企業の 80% は従業員数 5 千人以上、売上高 1 千億円以上の規模で、日本を代表する多角的でグローバルな活動を展開する企業がほとんどです。やる気さえあれば、皆さんが活躍できるフィールドは十分与えられたのではないのでしょうか？ 皆さんの活躍を期待しています。



5 学年学科担任
正木 忠勝

5 年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。入学しからのことを思い出すと 5 年間の高専生活は長いようでいて、あっという間ではなかったでしょうか。

私は君たちの高専生活最後の 1 年間、担任をできてとてもよかったですと思います。楽しい 1 年間でした。何よりもよかったのは全員が就職も進学が決まったことです。高専は就職がよいと一般的に言われていますが、リーマンショック以後、経済状況が低迷し、メディア情報工学科が進路決定 100% になったのは 4 年ぶり 3 回目です。これは経済状況が改善してきたことでもあります。君たちが充実した高専生活を送り、勉学や課外活動などに頑張ってきた結果です。

メディア情報工学科 6 期生は一人一人の個性は強いけれども団結力のあるちょっと不思議なクラスでした。体育祭での活躍、高専祭の映像作品。クラスのみんが頑張っている姿を担当としてずっと見守っていました。このクラスの仲間たちは大切な一生の友人になると信じています。

君たち 6 期生は 1 期生の卒業と入れ替わりに入学した学年です。いわば、沖縄高専 Ver2.0 は君たちの入学と共に始まったのです。君たちの先輩は沖縄高専をなにもないところから、沖縄高専らしいすばらしい校風を作り、沖縄高専 Ver1.0 を完成させました。それを引き継いだ 6 期生が先頭となって沖縄高専 Ver2.0 としてさらに深化させています。君たちの卒業をもって沖縄高専 Ver2.0 は完成します。君たちが残したものを元に、4 月から新たに入学する 11 期生が沖縄高専 Ver3.0 を作り上げていくはずですが、ですから、君たちが卒業した後も先輩たちがそうしてきてきたように、後輩たちを見守り、応援してください。

15 歳で入学し 20 歳で卒業する沖縄高専で過ごした 5 年間は君たちの人生の中で決して短い期間ではなく、今後の人生に大きな影響を与える 5 年間となっているはずですが、卒業した後、沖縄高専のことを誇りをもって思い出して欲しいと思います。卒業してからの君たちの活躍に期待するとともにエールを送ります。



5 学年学科担任
玉城 康智

6 期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんの門出を心より祝福致します。この 5 年間の振り返ると様々なことが頭に浮かぶことでしょう。入学式や体育祭、高専祭、研修旅行、インターンシップ、進学・就職活動、卒業研究、etc. みなさんは目の前のことに一生懸命取り組み、あっという間に卒業式を迎えたのではないのでしょうか。私がみなさんのクラスの担任することになり、決めていたことがあります。それは学生より先に物事を進めないことです。学生が企画するイベントはもちろん、インターンシップの企業選びなども学生が率先して行ってほしいと考えていました。そして学生に求めたのは「自分のことは自分で考え行動する。一人でできないことはクラスで協力してする。」ことです。心配事は多々ありましたが、5 年生になる頃にはイベントごとにクラスの有志が話し合い、全ての行事を遂行していました。卒業を迎えた今、私自身もクラスのみなさんに支えられ、担任の仕事を終えることができたことと実感しています。みなさんには大変感謝しています。

沖縄高専本科の卒業は、みなさんにとって通過点の一つかもしれません。しかし、その通過点で達成感を味わい、目標を達成できなかったことは反省し次のステップに繋げて下さい。私にとって初めての担任ということもあり思うように進まないこともありましたが、私は 6 期生の担任で良かったと思います。それは、クラスのみならず副担任の磯村先生が支えてくれたお陰です。3 年間ありがとうございました。これからみなさんは、それぞれの目標に向かって進んでいきますが、これからも 6 期生で支え合える絆を築き大切にしてください。そして、時々には沖縄高専に来て私達に元気な顔を見せて下さい。これから、様々な分野でみなさんの活躍を楽しみにしています。

5学年
萩堂 盛貴

就職率 100%！私が沖縄高専に入学した一番大きな理由でした。私たち 6 期生は、1 期生が卒業して最初の入学生で就職率 100% の話を聞き、大学まで勉強したくない、いい会社に就職したいそう思っていた私は高専への入学を決めました。

高専ではレポートなどを提出する際パソコンが必須です。パソコンに全く触れて事がなかった私にとって最初にぶつかった壁でした。キーボードを見ながら一つずつ文字を打つレベルの私にとってはめっちゃくちゃきつ今後の高専生活が不安になったのを覚えています。しかし、まじめに勉学に励めば大丈夫でした。勉強でいえば私たちの学科は入学時、43 名おり、学年でも最も人数が多い学科でしたが、ほかの学科とは違う機械科の勉強の難しさについていけなかったり、ほかの目標ができてやめていった人がいて、今は 36 名と学年で一番少ない学科となりました。

高専生活で一番思い出に残っていることそれは 4 年の体育祭です。私たち 6 期機械科はエイサーをやりました。エイサーは沖縄の伝統芸能なので下手な演技を見せることはできません。そのため、私たちは授業が終わると自主的に練習し、その結果見ている人からスタンディングオベーションを貰い、嬉しかったのを覚えています。また、その体育祭では全学年の総合優勝を飾ることができ、みんなで BBQ をしました。そこで、6 期機械科の絆が深まり最高の思い出となりました。

最後に 6 期機械科は男しかいなく、むさくるしくて、自分勝手に、うるさく、教員方からの評判も良くなかったと思いますが、今まで支えてくださりありがとうございました。

5学年
浦崎 秀司

高専に入学して早 5 年が経ちました。単純に親元を離れたい思いもあり、寮生活が楽しみであったことを今でも覚えています。また、入学 3 日目でハンドボール部に入学してから 5 年が経ちました。2 学年時に代表となり、チームをまとめるほか、試合の段取り、書類仕事にも携わりました。厳しい練習や伸び悩み時期もありましたが、ここまで頑張れてこれたのはたくさんの方の後輩、先輩、そして同級生のおかげです。5 年間負け続けましたがそれもいい思い出です。

機械科 6 期は騒がしいほどにぎやかで、とても個性的で、皆仲良しです。体育祭にエイサー、高専祭に研修旅行と様々な行事のほか、BBQ に海と楽しくないことがありませんでした。機械科は学年が進むにつれ難しくなり、初めは機械のことなどまったく知らず、課題やレポート、テストに日々悩まされましたが、機械科の皆の助け合いもありようやく、卒業を迎えることができました。とても忙しく、大変充実した 5 年間でした。編入で大学へ進む人、就職する人と皆進路はバラバラですが、この高専で学生生活を共に過ごした友人、仲間たちは一生の宝物です。卒業後もまた、みんなで集まれることを楽しみにしています。5 年間お世話になった教員の方々、多大なるご迷惑をお掛け致しましたが、とても感謝しております。後輩の皆さんも、高専生活に後悔を残さず、ぜひ楽しんでください。ありがとうございました。

5学年
宮里 一輝

期待と不安いっぱい寮生活から始まった高専生活は、本当にあっという間の 5 年間でした。この 5 年間には、高専でしか作れなかった思い出がぎっしり詰まっています。その中でも特に印象に残っているのが部活動です。まだ学校にも慣れない時期に、何も考えずに体育館に足を運び初めて見学した部活動がハンドボール部でした。学校生活や勉強面でもたくさんの方のアドバイスをくれた優しい先輩方や、共に汗を流して練習を頑張ってきた個性的で面白い 8 人の仲間と、頼もしい後輩達に支えられてここまで来ることができました。特に、サポートして頂いた顧問の先生には本当に感謝しています。他にも、会計局長として運営に携わった高専祭や、クラス一丸となって優勝を目指した体育祭、毎週のように書いていたレポートも今となっては良い思い出です。

4 月からは、それぞれ社会人として再スタートです。こんな私を支えてくれた家族、常に親身になってサポートして下さった教職員の皆様、家族同様に支えてくれた情報 6 期生に深く感謝しています。最後に、これから沖縄高専生として頑張る新 1 年生から就職活動を控えた新 5 年生の皆さん、悔いだけは残さないよう 1 日 1 日を大切に過ごしてください。皆さんの活躍を心から期待しています。ありがとうございました。

5学年
照屋 未来

5 年間、なんて長いだろう。そう思っていた入学時からあっという間に時間が過ぎ、ずっと先のことだと思っていた卒業が目前となりました。専攻科へ進学するため春からも生活に変わりはないものの、そこに今までいた同級生たちがいなくなると考えると非常に寂しい気持ちになります。

私は、高専に入学してからこれまで、同級生や先生、先輩後輩、家族、いろいろな方から支えられ、助けられて 5 年間過ごしてきました。また、海外研修やインターンシップ、コンクール、学会などで様々な機会を通してたくさんの方の人たちに出会い、つながりを持つことができました。沖縄高専で出会った人たち、また他高専の人たちとつながることができたのは私の大きな強みであり、励みです。機会を与えてくださったすべての人、特に沖縄高専の先生方に感謝したいと思います。

最後に同級生みんなへ。卒業してから、それぞれがそれぞれの道を進んでいくことになりますが、沖縄高専で過ごした 5 年間は変わることなくみんなの中に残ると思います。また再会したときには、思い出話をして笑い合えることを楽しみにしています。今までありがとう、そしてこれからもよろしくお願いします。

5学年
長嶺 伸

気がつけばもう5年。入学前は果てしなく長く思えた5年間でしたが、実際、入学して沖縄高専で過ごしてみると実にあっという間でした。私が入学した年はちょうど一期生が卒業し、専攻科が設立された年でもありました。卒業した一期生の方と入れ替わりになるということで半ば緊張し、半ば高揚しながらこの沖縄高専に入学してきました。

はじめのうちは寮生活にも慣れず、高校とは異なる早いペースのカリキュラムなど戸惑うことも多くありましたが、個性豊かな6期生のみんなと過ごすうちに授業にも沖縄高専の生活にも慣れ、沖縄高専での生活が楽しいものとなっていきました。

特に3年次から一緒に過ごしてきたメディア情報工学科の仲間たちとは3年次の高専祭でのお化け屋敷から始まり、4年次の研修旅行や高専祭での短編映像作品制作、5年次での体育祭総合優勝や高専祭での長編映像作品制作・クラス杯優勝などイベントのたびにみんなで力を合わせて取り組むことで楽しい思い出とかけがえのない絆を築きあげてきました。私は沖縄高専を卒業後、東京農工大学に3年次編入で進学します。東京という慣れない土地への進学で不安なことは多々ありますが、関東圏には6期メディアの仲間が多く就職・進学するため、とても心強く慣れない土地でも頑張っていけるような気がします。

この5年間、私は多くのことを学び、様々なことを経験し、未熟ですが成長することが出来ました。これからは新たな環境で更に技術や知識を高めて、少しでもお世話になった両親や沖縄高専の恩師に恩返しができるよう精進していきたいと思っています。この密度の濃い5年間を私はきっと忘れることはないでしょう。5年間本当にありがとうございました。

5学年
桑野 絵維子

沖縄高専は今年で創設10年を迎え、大きな節目を迎えました。私にとってもこの年は最上級生であり、10年記念式典の司会を務めさせて頂いたり、級長を務めたりと、大変感慨深い一年となりました。学校行事において体育祭では学年優勝、高専祭ではクラス杯で総合優勝をいただくなど、最後の年に5年メディア一同納得の行く結果を取ることができたと思います。入学当初は右も左もわからず、戸惑う事も多くありましたが、この5年間の高専生活を通して、勉学は勿論のこと、一人の人物として、社会人として大きく成長を遂げたと実感しています。特に3年生での研修旅行では一段と友情を深めることができ、4年生でのインターンシップでは社会人としての倫理や仕事のやりがいや学ぶ事ができました。そして5年生では高専祭の映像作品の制作で、CG制作や動画編集など各々の得意分野を存分に活かし、クラス全体で協力しクオリティの高い作品を作ることができたと思います。そして、就職活動も人生の岐路の選択を行う重要な活動でした。自分の進みたい道を模索し、自分自身がどのように生きたいのか、自分という人間はどんな人物であるのかを今一度振り返り、見直す良い機会であり、就職活動を通して人間的に大きく成長できたと感じています。

そんな中、厳しく、そして時には優しく私たちを指導して頂き、さらに暖かく見守ってくださった教職員の方々に深い感謝の意を表します。来年度からは新社会人として新たな生活をスタートさせますが、5年間で培った技術や知恵、そして生き方を活かして社会に貢献する立派な技術者になることを夢見て、これからも精進していきたいです。

5学年
伊良部 寛規

沖縄高専に入学して早5年という月日が経ちました。15歳で親元を離れ、一人で宮古島から本島に来たため、入学したての頃は友達ができるのか、寮生活は大丈夫なのか、本当にやっていけるのかなど不安で仕方ありませんでした。しかし、今では、沢山の友達に囲まれ充実した毎日を過ごしています。

5年間はとても早かったですが、振り返ると沢山の思い出が蘇ってきます。特に心に残っているのは、5年間続けた部活のバスケットボールです。試合で思うような結果を残せず、悩んだこともありましたが、5年間続けて良かったと心から思っています。またキャプテンとしてチームをまとめた事は、とてもよい経験になりました。そして、自分にとってバスケット部の仲間は一生の宝といえる存在です。部活では共に汗を流し、夕食ギリギリまで練習。寮に帰ってもみんなで集まり、どうでもい話で盛り上がり騒いだりする。文字にしてしまうと、どうでもいい1日になってしまっていますが、仲間たちと過ごした日々が僕の支えになっています。

クラスのみならず過ごした日々もとても充実したものでした。研修旅行や毎年の体育祭、高専祭を通してクラスの絆が深まった気がします。最後の集大成となる卒業研究最終発表は、クラスのみならずがいたから乗り越えられたと思います。互いに支えあい、指摘し合い、磨き合ってきた仲間たち。みんなと過ごした日々が、僕を成長させてくれました。クラスメイトのみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。

4月からはいよいよ新しいスタートを切ります。僕は専攻科に進学するので、あと2年間勉学や研究に励み、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。そして、20年間育ててくれた家族に恩返しをしたいと思います。

最後に、私に勉強を教えてくださいました先生方、勉強以上に大切なことがあると教えてくれた仲間たち、その他全ての方々に感謝します。5年間ありがとうございました。これからもよろしくお祈りします。

5学年
大濱 公子

沖縄高専に通い始めてもう5年という月日が経ちました。入学当初は寮生活や学校生活、友達ができるかなどの多くの不安があったのを今でも覚えています。卒業を目前にした現在、クラスの仲間との数えきれないほどの思い出がよみがえってきます。毎年恒例の体育祭、高専祭はみんなで準備に取り組み、学年を重ねるたびに絆が深まりました。また、3年次の研修旅行では関西に行き、いくつかの企業についても学べました。それだけではなく、講義では専門的な知識の他にも基礎実験により技術を身につけること、また、プレゼンテーション能力を高めるためにさまざまな教科でプレゼンを行うなど、勉学の面では苦しみ、さらに5年次になると卒業研究が始まり、忙しい日々になりながらも周りの友達と一緒に励まし合い、頑張ることで乗り切ってきました。このクラスで学生生活を送れて本当に良かったと思います。また、4年次まで野球部に所属しており、日々の練習や長期休暇中の合宿などを行いました。部活動では、クラスとは異なる仲間との絆を深められ、多くの先輩・後輩との交流にもなりました。この5年間で非常たくさんの経験ができ、自分自身の大きな成長になったと感じています。充実した学校生活をともに過ごしたクラスメイトや友達、支えてくれた親や先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。この5年間で学んだこと、経験したこと、この高専でできた友達をこれからも大切にしていきたいです。そんな私達も3月に卒業します。このクラスと過ごす時間も残りわずかとなり、さみしい気持ちが溢れてきますが、4月からはそれぞれ自分の新しい道を歩み始めます。大学・専攻科に進学の人、就職する人などみんな新しい環境になり、新しい出会いや経験をしていくと思います。ここ高専で、関わりのあった方々や家族に恩返しできるように、また5年間で培ってきた経験を活かし、社会に貢献できるひとを目標にこれからもがんばりたいと思います。

1 学年



1 学年主任
澤井 万七美

4月の入学式から、あっというまの1年間が過ぎようとしています。親元を離れての寮生活を初め、さまざまな経験を通じて成長しつつある学生たちの姿に、保護者の皆様におかれましては感慨もひとしおのことと拝察します。

後期は、10月9日の文化競技会、11月9・10日の高専祭、1月20・21日のパフォーマンス大会などのイベントが行われました。とりわけ高専祭は、体育祭と同様にクラス全員が力を合わせて進めていかなければならず、大変だった面もありました。しかし、互いに楽しみながら協力することの大切さを学んだのではないのでしょうか。高専祭実行委員の各部局のスタッフとしても多数の学生たちが大活躍してくれたおかげで、あの2日間のイベントの成功があったことも忘れられません。

年度替わりを控え、学生会・寮生会の選挙も実施されました。携わってくれた学生たちは、そこで“組織の運営”について多くのことを学んだと思います。

また、“社会の先輩”との交流の場もいくつか設けられました。年4回に及んだ「学科別よろず相談会」では、専門学科の教員や先輩たちと実際に顔を合わせて話をすることで、良い意味での“縦のつながり”が得られた学生も多いようです。11月13日には教務主事（平山けい）による講話が行われ、「いま自分がこうして日々を過ごせることについて、周囲に感謝していますか？」という問いかけがなされた際、マイクを持った学生たちは、改めて自分を支えてくれている多くの方々思いを馳せた言葉を口にしていました。さらに12月4日には、外部より上原順子氏（ティンクル・ラボ代表）を講師にお招きし、「社会人として求められるルールとマナー」に関して考えるキャリア講演会が開催されました。こうした積み重ねを自らの糧にできれば、と願っております。

ただ、残念ながら遅刻や居眠りなどで周囲に心配をかけている学生も一部見受けられます。沖縄高専の「自主性を重んじる」という方針は、「自分の好き勝手にやっていい」ということでは決してありません。ひとりの言動が組織全体の評価につながるということを念頭において、自己研鑽して欲しいと思います。

学生の成長のために、今後とも御家庭ならびに地域社会の皆様のご理解を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



教務主事講話の様子

2 学年



2 学年主任
下郡 剛

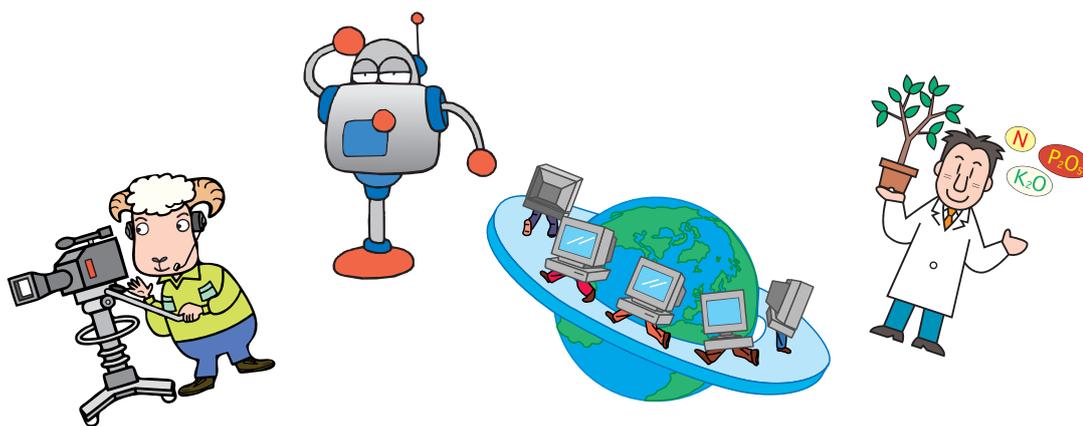
後期は、大きなイベントとして高専祭を行いました。どうだったでしょうか？

当日に至るまでは、クラスの役員を中心にみんなで協調・協力しつつ、準備を進めていたのが印象的でした。また高専祭当日には、多くの楽しそうな顔に出会え、教員としてうれしい気持ちでした。怪我なく終了できたことも良かった。皆さんにとって、良い思い出になっていれらうれしいです。

さて、混合学級で過ごしてきた高専生活もいよいよ終わり、来年度からは学科別でのクラス編成となります。それに伴い、授業における専門科目の比重もいよいよ高まってきます。皆さんも知っているとおり、高専は高等教育機関です。職業訓練学校ではありませんから、一般科目もしっかりやってもらいます。しかし、だからといって、皆さんは一般科目を勉強するために高専に来たわけではないであろうとも思います。これからより深く、自分が選んだ専門の領域に踏み込んでゆける喜びと緊張感をもって、新年度に臨んで欲しいと希望します。

自分が進んでゆく方向性がまだ見えない人は、何度も言っているように、なるべく早く見つけてください。目的があるかないかで学生生活ははるかに変わってきます。

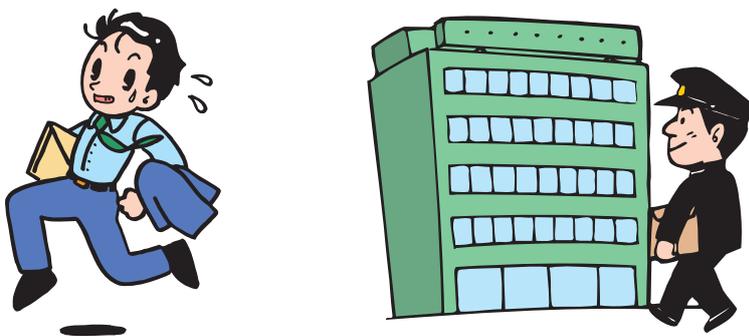
最後にもう一つ。正課の勉強以外に、一生懸命になれるものを是非一つ、この学生生活で見つけてください。部活動・学生会活動・ロボコン・プロコンなんでも結構です。後から学生生活を振り返った時、とても素晴らしい思い出になります。頑張り切れたという自信にもつながります。その自信が次のステップへの原動力になりますし、なにより苦しくなった時に自分を支えてくれます。未来の自分を支えることのできる力を是非今培ってください。





3 年生は、これまでの混合学級から学科ごとにクラスが分かれ、環境が大きく変化します。さらには、専門の科目が多くなり学ぶ学問の内容もより難しくなってきます。一方で、3 年生という、高専生活はまだまだとお考えでしょうが。就職活動の観点からすると、もうすでに折返し地点は過ぎております。今後のスケジュールを確認してみると、本科で就職を希望する学生は、5 年生の 5 月でほとんどの学生が内定を得ます。4 年生の夏休みには、インターンシップがありますが、この就業体験であるインターンシップは、高専生活でたった 1 回しかございません。希望する会社の就業が体験できる貴重な機会です。これらのスケジュールに合わせるためには、3 年生は、今後進みたい進路、業種、さらには会社を決める大切な時期であります。

今後の人生に大きくかかわる就職先を決めるというのは大変なことです。日頃勉強しつつも、それぞれの学科にかかわる時事問題などに興味を持って、情報を集め、後悔のない進路決定ができるように頑張ってください。



「地図、持っていますか？」

「3、2、1、スタート！」12 月 1 日 9 時ちょうど、晴れ渡る青空の下、奥武山陸上競技場には、カウントダウンとともに第 29 回那覇マラソンスタートの号砲が鳴り渡りました。しかし、3 万人を超える出場者の最後尾近くに並んでいた初出場の私がスタートのラインをまたいだ時には、時計の針はすでに 9 時 30 分をまわっていました。様々なアクシデントを想定し、安全係数も高めに設定して、幾度となくゴールまでのシミュレーションを行って練習してきましたが、30 分の遅れは想定外でした。とにかく走りながら、どのくらいのペースで走れば制限時間をクリアできるのか、今自分はどのくらい遅れているのか何度も計算しながら、なんとか 42.195 km を走り切ることができました。「人生はマラソンだ」とは、あまりに使い古された表現ですが、自分で走ってみてまさにその通りだと実感しました。

4 年生は、インターンシップで試しに少し走ってみて、「この仕事は面白い」「この会社は自分には合っていない」など様々な思いを持ったと思います。ウォームアップもそろそろ終わったところで、就職活動も解禁され、本気でペースを上げるところにきています。でもちょっと待って下さい。ゴールまでの道のりは頭に入っていますか？

人生には地図が必要です。目的地は全員違います。みんなが右に曲がった交差点を、左に曲がらないと行けないかもしれません。道のりが分かっているならば、「順調にすすんでいる」とか「今は苦しいけど、あの角を曲がれば楽になる」とか分かります。もちろん、途中で地図を描き直す事もあります。それでも「ここまでは頑張ってきたのだから、ここまでは行けるはず」と判断ができます。周りの友達は、もう自分の地図を手に全力で走り始めているかもしれませんが、まだ描けていない人は一度立ち止まって地図を描いてみてください。スタートの 30 分の遅れは取り戻せるのですから。



写真は、1 月 22 日学内合同企業説明会の様子



4 学年
仲村 大志

私は広島県にある三菱重工業株式会社広島製作所に、2 週間のインターンシップに参加しました。三菱重工業株式会社は 700 種以上に及び製品を展開し、国内はもとより世界各地で船舶、発電プラント、環境装置、産業用機械、航空・宇宙機器などのあらゆる産業や都市生活を支えている総合機器メーカーです。

私は将来、社会の発展に貢献し、やりがいを感じる事が出来る仕事をしたいと考えていました。インターンシップは実際に企業に身を置くことができる貴重な機会のため、企業研究を行い、世界規模であらゆる分野から社会の発展に貢献している三菱重工業株式会社のインターンシップに参加することに決めました。

インターンシップでは、三菱重工業株式会社広島製作所の機械工作部インペラ課という部署に配属されました。インターンシップ内容としては、実際に工場を見学してどのような製品をどのような工程、技術で製作しているのか学んだ上で、現場の方から話を聞き、インペラ課の業務上の問題点を検索、部署をより良くするためにはどうすればいいか自らテーマを決めて改善案の提案など取り組んだ結果を 2 週間できまとめ、最終日に発表するというものでした。私が取り組んだテーマとしては、「インペラ清流化によるロス削減」で、私が配属された機械工作部のインペラ課という部署ではコンプレッサに必要な

部品であるインペラを製作しており、その工場を整理、または取り決めを行うことで製品の流れを良くし、ロスをなくして生産効率を上げることを目的としました。

このインターンシップを通して、現場での取材から問題点の検索、テーマを設定、改善案の提案など指導員の方の補助は多少ありますが、ほとんど自分一人で行うため、コミュニケーション能力や問題解決能力、発表に必要な知識などの向上を実感することができました。また、職場ではインターンシップ生用の席が用意されており、そこで会社の一員として作業を行うことで三菱重工業株式会社という大企業の職場の雰囲気や業務内容、工場見学を通しての技術など、さまざまなことを学ぶ事が出来ました。

これからインターンシップに参加する皆さん、インターンシップは学校では学ぶ事のできない、社会勉強をすることができる貴重な機会です。是非皆さんには目指している分野の企業を見つけ、有意義なインターンシップにして欲しいと思います。



4 学年
宮城 祥

私は、「株式会社シマノ」という、自転車の部品や、釣り具、ロウイング関連商品を作って、販売している会社に 1 週間インターンシップに参加しました。私は自転車競技を通してシマノを知り、どのように製品が製造されているのか、どうして製品の違いによって性能が違うのか気になっていました。また、将来はシマノに就職し設計したいということから参加したいと思いました。

インターンシップでは、工場見学を通して製品ができるまでの流れを学びました。工場は、3 つの課から分かれており材料から部品の形を作る CF 課、機械を使い製品の形に削る切削課、製品に追加の性能を付ける熱処理・表面処理課の 3 つです。それぞれの課で、どのような仕事をしているのかという説明を受け、実際に現場で働きました。CF 課では、大きな機械をたくさん使っており、職人技がとても大切であるということを知りました。切削課では、製品の精度を細かい値まで管理していたためとても驚きました。熱処理・表面処理課では、最終仕上げの大切さについて学ぶことができました。

今回のインターンシップを通して、品質や製品管理のすごさ、各課での連携の大切さを知ることができました。また、海外のシェアがとても多く、海外工場もあることから英語は大切だと感じました。この体験を通して将来就職したいということとをさらに実感することができました。インターンシップに参加することで、会社の雰囲気や仕事内容、仕事のやりがい、社会人としての責任の重大さなどを学ぶことができ、仕事選びにとっても役に立ちます。皆さんも、インターンシップを将来に役立て、よい経験ができるように頑張ってください。

最後に、今回インターンシップに参加させていただいた「株式会社シマノ」の方々に感謝を申し上げます。



4 学年
比嘉 諒幸

私は 8 月 19 日から 30 日までの 2 週間、大分県大分市にある「新日鐵住金株式会社」へのインターンシップに参加させて頂きました。新日鐵住金株式会社は、自動車や船舶、鉄道などに使われる鉄を主に作る会社で、粗鋼生産量は世界第 2 位という大企業です。しかし、ただ鉄を作るのではなく、使う用途に合わせて材質や重さなどを微妙に変化させたりと、かなり高度な技術も持つ会社です。

私は将来、たくさんの方が関わり、やりがいのある大きな仕事をしたいという思いがありました。そこで、3 年生の頃から企業説明会などに積極的に参加し、日本だけでなく世界を相手に仕事をしている新日鐵住金株式会社へのインターンシップに参加することを決めました。

インターンシップでは、大分製鐵所の制御技術室という部署へ配属されました。ここでは 1 人 1 人違うテーマが与えられ、担当指導員と一緒に取り組んでいくというもので私が担当したテーマは「熱間圧延工程における蛇行制御技術の検討」という時速何百 km という速さで流れて行く鉄の板をまっすぐ進むように制御するという内容でした。また、どのテーマも現在会社が抱えている問題なのでとてもやりがいがあると思います。

インターンシップでは、初日に工場見学を行い、実習モデルの理解、MATLAB によるシミュレーション結果確認、改善策検討、レポートまとめ、最終日に実習内容報告会という内容でした。初日の工場見学会では工場のスケールの大きさに圧倒されたのを覚えています。シミュレーション結果確認では、ただ結果を求めるだけでなく何でこういう結果になったかまでを考えさせられ、今までそういうところまであまり深く考えておらず、とてもいい刺激になりました。また、改善策検討では、全然わからなくて進めなくても担当指導員の方が自分の仕事が忙しいのにも関わらず丁寧に説明してくれました。最終報告会では、これまでの実習を社員の方に発表し鋭い質問などもあり自分の力の無さを痛感しましたが、自分の実力を見つめ直すいい機会になりました。

インターンシップでは、ただ仕事をするだけではなく、夜にはインターンシップ生同士で遊んだり、各部門での懇親会やボウリング大会などがありました。ここでは、大学院生や社員の方々と交流し、話を聞くことで将来について考えるいい機会になりました。また、週末にも先輩社員や担当指導員に温泉やご飯に連れて行ってもらったりしてとても充実した 2 週間を過ごすことができました。

これからインターンシップを体験する後輩へのアドバイスとしては、できるだけ多くの企業を調べどの企業に行きたいかを早めに決めたほうがいいと思います。そして、インターンシップに参加し、企業や社員の雰囲気、実際の仕事を体験することで、自分のいい部分や足りない部分が見えてくると思います。いい部分はたくさん伸ばし悪い部分は改善することで将来の自分に役立つと思います。インターンシップでは、学校の授業では体験できないような経験もたくさんできますので悔いの残らないインターンシップにしてください！



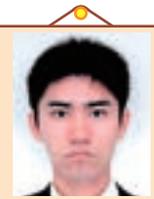
4 学年
川満 葉月

私は 14 日から 18 日までの 5 日間、沖縄テレビ放送株式会社へのインターンシップに参加しました。

単純に「テレビ局の中ってどんな風になってるんだろう・・・」という興味から沖縄テレビを選びました。局内では、様々な部署に分かれていて、想像よりも狭いスペースで撮影や編集などを行っていました。それぞれの部署がそれぞれの仕事を時間内に終わらせないといけないという責任もあり、多少空気が張り詰めている、という印象も受けました。しかし、張り詰めた空気だけではなく、撮影の間やお昼休みには、社員の皆さんや演者さんの笑顔が飛び交っていて、とても和やかな一面もありました。

インターンシップの内容は、技術局の「製作技術部」と「管理技術部」という部署の方と一緒に座学や見学を行いました。「管理技術部」では、局内のアンテナの見学や電波がどのように発せられているのかなどの説明を受け、実際に通信所の見学もさせて頂きました。「製作技術部」では、撮影の前にはカメラやマイクの説明を受けて、直接操作させて頂き、演者さんにピンマイクをつける体験もしました。また、最終日には局外に中継という日程で、何もない場所に機材運び、組み立てて撮影、そして片付けまでを行いました。インターンシップに参加しなければ分らなかった、テレビ局の中身を、とても丁寧に説明して頂きました。メディアと情報から 2 人ずつ、また、他の学校の学生も受け入れている中で、座学から見学、体験まで、忙しい中本当に丁寧に接して頂きました。

今回の経験は、今後、就職活動を行う中で、活かせることが多く、とても貴重な経験になったと思うので、今回の経験で学んだこと、感じたことなどを忘れず、今後の活動に活かしていきたいです。

4 学年
久保田 明成

私はインターンシップで東京にある株式会社リンクアップ・ジャパン (LAJ) に約2週間お世話になりました。リンクアップジャパンはWEB制作やデータセンター運用、システムインテグレーションやアウトソーシングなどの事業を展開しているIT企業です。

インターンシップでは、4名のメンバでLAJに対してスマートフォン向けWEBチャットシステム導入の提案とチャットシステムの開発、そしてチャットシステムをLAJの役員の方々にプレゼンテーションし、売り込みをするといったことを体験しました。

チャットシステム導入の提案では、初めてヒアリングを行いお客様の声を聞くことの大切さと難しさを学びました。システムの開発では、初めて触れる技術もあり勉強をしながらの開発でしたが忙しいながらも楽しく開発をすることができました。また、私は、メンバの役割分担及びスケジュール作成と進捗管理等も担当したのですが、自分たちの技量をうまく把握できていなかったため、各工程の進捗が予定よりも早かったり遅かったりして、2週間の間で何度もスケジュールを再編成したりとプロジェクトマネジメントの面でも多くのことを学ばせていただきました。

そして、今回のインターンシップで最も学ぶことが多かったのがLAJの方とのプレゼンテーションに向けた取り組みです。手渡されたところの新聞の社説を即興で語る特訓では、相手に伝えるために文章で書かれた言葉を声で伝えるための言葉に直したり、声の抑揚や間などを意識しながら話したりと、表現力を鍛えられました。また、プレゼンテーションの役割が何なのか考えさせられ、私はLAJの役員の方々に契約書にサインをもらうことをこのプレゼンテーションの目標として密かに掲げていました。そして、プレゼンテーション本番では、LAJの役員の方々に本気で契約を取るつもりでプレゼンテーションを行い、社長から「これくらい出来るの?」と聞かれ「100万円くらいです」と答えた時にお世辞かもしれませんが「買った!!」といってもらった時は、「やった!!」と心のなかでガッツポーズしました。

実際に県外で生活しながらのインターンシップは、県外就職を希望していた私にとって、有意義なもので、業務外でも多くの貴重な経験をしました。知らない土地で生活するのは不安もありましたが、それ以上に新しい発見やワクワクがあるものです。もし、後輩で県外就職を考えている方がいたら、県外でのインターンシップを強くおすすめします。きっと、自分を変えるような発見がいっぱい待っていると私は思います。

4 学年
金城 絵理奈

私は、コンピュータシステムを用いた業務の効率化や、それらのシステムを安全に利用・管理するために必要なネットワーク技術とITサービスを提供する仕事に興味がありました。

そこで、民間企業や行政機関、医療機関向けにソリューションの提案・開発の業務を展開している株式会社創和ビジネス・マシズに、インターンシップをお願いし快くお引き受けいただきました。約2週間、社内にある5つ部署全てにお世話になりました。部署によってお客様の職種が違うため、行っている業務内容も全く違い、毎日新しい体験の連続でした。

私はシステムを提供する仕事といえば「開発」と思っていました。顧客に合わせて既製品を「カスタマイズする」という仕事があることを知りました。実際にお客様に提供しているソフトウェアのカスタマイズ練習をしましたが、データの扱い方や入力画面の作成など、たくさん設定しなければならぬことがあり、時間がかり難しかったです。また、医療機関を顧客としている部署にお世話になったときは、病院に連れて行っていただき、実際にシステムが使われている様子を見学させていただきました。製品の保守や管理のため、このようにお客様のところへ出向くことも多いと聞きました。エンジニアはパソコンと向き合っただけの仕事なのかな、と勝手なイメージを持っていましたが、人との距離が近い仕事であることを学びました。業務以外では、毎日スーツを着てモノレール通勤したことや、色んな年代の社会人の方とお話したこと、普段

ではできない体験で新鮮で楽しかったです。

これからインターンシップをする学生は、業務について積極的に学ぶことに加えて、社内の様々な人を観察して自分が社会人になった姿をイメージしてみると良いと思います。私は高専入学当初の頃から就職を希望していましたが、インターンシップでの経験も踏まえ改めて進路について考え、進学希望に変えました。学生だからこそできる活動や学びを通して、自分の視野をもっと広げたいと思ったからです。進学・就職希望のどちらの方でも、自分の将来について考え直す良い機会になると思うので、是非有効に活用してほしいです。

最後になりましたが、お忙しい中貴重な時間を割いてこのような機会をもうけていただいた、企業の方々と先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

4 学年
安里 亮太

私がインターンシップで学んだことは、学校の代表者としての自覚を持ち、事前にはっきりとした準備しておくことが大切だということだ。

私はインターンシップで三洋化成工業株式会社とオーピーバイオファクトリー株式会社にそれぞれ5日間ずつお世話になりました。4年生の初め頃、将来的にメーカーに勤務して仕事をやるか研究職を目指すのかで迷っていたため、県外の大手化学メーカーである三洋化成工業株式会社と県内のバイオベンチャーであり研究職に近い業務を行うオーピーバイオファクトリー株式会社の2社でインターンシップを体験させて頂きました。

三洋化成工業株式会社は京都市内に本社がある化学メーカーで、私は本社の隣の京都工場での研修をしました。研修内容は講義で工場内の作業や安全確認の重要性について学ぶことや実際に工場内のプラントの見学したこと、現場の第一線で働くプラント責任者の方々の熱いお話を聞き取るなど、とても充実していて面白い内容でした。5日間の研修中は大阪府樟葉市にある寮に宿泊しました。寮では夕食後や就寝前に談話室で、京都工場働く社員の方々とお話しすることができ、三洋化成工業について教えて頂けるなど貴重な体験をすることもできました。

オーピーバイオファクトリー株式会社ではうまし洲崎の工業技術センター内で研修をしました。オーピーバイオファクトリー株式会社は沖縄の海に生きる生物の生物資源ライブラリーを構築している企業で、私は5日間を通してサンプルから抽出物を取り出す業務を体験させて頂きました。朝から夕方まで実験漬けで楽しかったのですが、精神的にも疲れました。作業は基本的に1人で行ったのですが、年が近い社員の方に作業を手伝って頂ける時もあり、大学院のことやバイオベンチャーのことについてお聞きすることができました。

企業形態の異なる2社でのインターンシップから、本科卒業後はメーカーに就職しようかと決めました。実際に工場働いている人達を見て、自分も工場働いてみたいと思ったためです。

最も心に残っている出来事は、三洋化成工業株式会社での研修中に社員の方が私にした有機化学の質問に、3年次で学んだ範囲なのに答えられなかった時「自分が学生の間で学んできた事を他人に説明できなければ知らないのと同じ。」と言われたことです。この言葉で、私は沖縄高専の代表者としての自覚が足りなかったと気付かされ、今後このようなことが無いように、現在学んでいる4年次の範囲からしっかり理解しようと思いました。

これらの体験から沖縄高専の代表者としての自覚を持つことはどんな場合でも必要であると学び、これからの就職活動に活かしていきたいと思っています。

4 学年
島袋 友美

私は、9月に米国・シリコンバレーで、バイオ関係の企業であるLife Technologies社、Bio-Rad社、Affymetrix社の3社にお世話になりました。3社ともライフサイエンス関連研究の試薬や機器類の開発・販売を行っており、生物資源工学科の実験授業でも、これらの企業が提供する製品を活用しています。

私はこの研修が初の海外であったため、最初は不安な気持ちもありましたが、いざ到着してみると見たことのない環境に高揚し、楽しみな気持ちが強くなりました。

研修内容は、主にラボ(研究室)見学と、企業の研究者の方々のディスカッションを行いました。ラボ見学においては、企業の実験の様子を知ると共に、最先端の技術を垣間見ることが出来ました。ラボ内で見たことで印象に残っているのは、いずれの企業も実験室の機器類に名前を付けていたことです。お茶目さを感じると同時に、機器にも愛情を持って大切に扱っている様子が感じられました。

ディスカッションでは、企業の方々の仕事内容や、最新の研究についての知見を伺うことが出来ました。また、自らの研究内容についてのアドバイスなども頂くことが出来、非常に有意義な時間となりました。英語での会話でしたが、日頃から英語はこつこつ勉強をしていたため、あまり慌てずに済みました。ディスカッションを通して感じたことは、働いている方も非常に明るく、向上心が有り、自らの仕事に対してとても誇りを持っていてことです。職場も明るく楽しい雰囲気です。

私自身も将来はこのような職場で、職務に誇りを持って働きたいと思いました。

私はこれまでは、漠然とバイオ関係の研究職に就きたいという考えだったのですが、今回の研修を通して、今までより明確な将来設計が出来るようになりました。まず、バイオテクノロジーの中でも、医療に関わる分野で研究がしたいことが確信出来ました。そして今回Bio-Rad社で、バイオの教育関連業務についての詳しいお話を伺い、科学教育にも興味を惹かれました。多岐の分野で活躍することも魅力的だと感じました。また、海外の企業を肌で感じることで、様々な国で仕事がしたいという気持ちも生まれました。

今回のインターンシップは、勉学に対する士気を高めるきっかけとなりました。この気持ちを忘れずに、知識や技術及び人間性を今後の学生生活で磨いていきたいと思っています。

【平成26年3月卒業予定者の進路状況】

沖縄高专では、平成26年3月に150名が卒業する予定で、うち67名が進学、82名が就職を希望しています。各学科ごとの進路決定状況は下記のとおりです。

◆就職・進学内定状況◆

平成26年2月現在

	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合計	
卒業予定者数	35	39	39	37	150	
進学状況	進学希望者数	13	10	28	67	
	合格者数	11	10	28	65	
	うち専攻科合格者数	7	4	13	32	
	うち3年次編入等合格者数	4	6	13	30	
	うち専門学校合格者数	0	0	2	3	
	進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	84.6%	100.0%	100.0%	97.0%	
	進学先※	長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学 神戸大学 九州工業大学(2) 千葉工業大学	宮崎大学 琉球大学(2) 名城大学	東京農工大学 九州大学 宇都宮大学 琉球大学(2) 武蔵野美術大学	信州大学 長岡技術科学大学(4) 岡山大学 高知大学 琉球大学(4) 宮崎大学 筑波大学 東京環境工科専門学校	
内定状況	就職希望者数	26	29	8	82	
	内定者数	25	29	7	80	
	内定率 (内定者数 / 就職希望者数)	96.2%	100.0%	87.5%	97.6%	
	内定先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業	株式会社ベアック沖縄 沖縄パナソニック特機株式会社 沖繩電力株式会社 ヤンマー沖縄株式会社 拓南製鐵株式会社 沖繩ターミナル株式会社 株式会社西原環境おきなわ	沖縄電力株式会社 沖繩東芝メディカル株式会社 株式会社沖繩富士システムエンジニアリング	株式会社SummerTimeStudio 沖繩パナソニック特機株式会社 株式会社パッション 沖繩クロス・ヘッド株式会社(3) NECソフト沖縄株式会社 株式会社ベアック沖縄 株式会社沖繩富士システムエンジニアリング 株式会社沖繩ゴンゾ	琉球セメント株式会社 株式会社サウスプロダクト	
		計7名 内定者に占める割合 37%	計3名 内定者に占める割合 12%	計10名 内定者に占める割合 35%	計2名 内定者に占める割合 29%	計22名 内定者に占める割合 28%
	内定先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業	株式会社カンセツ JXエンジニアリング株式会社 盟友技研株式会社(2) 朝日インテック株式会社 山九株式会社 株式会社ハイベック 富士テクノサービス株式会社 株式会社荏原製作所 株式会社九南 株式会社赤井工作所(2)	株式会社NTTホームテクノ(2) 矢崎総業株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 出光興産株式会社 中部電力株式会社 CTCシステムサービス株式会社 ダイキン工業株式会社(2) 日本信号株式会社 富士電機株式会社 東京ガス株式会社 新日鐵住金株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社日立ハイシステム21 株式会社東芝 社会インフラシステム社(2) 東京計装株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト セコム株式会社 株式会社東芝(府中事業所)(2)	パナソニックエレクトロニクス株式会社 CTCシステムサービス株式会社 株式会社日立情報通信エンジニアリング NECネットエスアイエンジニアリング株式会社 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社 エヌアイシー・ソフト株式会社 株式会社協和エクシオ 株式会社トヨタコミュニケーションシステム(3) 株式会社ドリーム・アーツ 株式会社エス・ティー・シー 大阪ガス株式会社 株式会社第一テクノ 株式会社日立ハイシステム21 出光興産株式会社 Jetrunテクノロジ株式会社 株式会社シーエヌエス 株式会社デジタルデザインサービス	雪印メグミルク株式会社 大同薬品工業株式会社 旭化成株式会社 日本特殊研砥株式会社 三洋化成工業株式会社	
		計12名 内定者に占める割合 63%	計22名 内定者に占める割合 88%	計19名 内定者に占める割合 66%	計5名 内定者に占める割合 71%	計58名 内定者に占める割合 73%

※同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

【平成26年3月修了予定者の進路状況】

沖縄高専では、平成26年3月に専攻科23名が修了する予定で、うち9名が進学、14名が就職を希望しています。各コースごとの進路決定状況はつぎのとおりです。

◆就職・進学内定状況◆

平成26年2月現在

	機械システム 工学コース	電子通信システム 工学コース	情報 工学コース	生物資源 工学コース	合計	
修了予定者数	3	8	2	10	23	
進学状況	進学希望者数	1	6	1	1	9
	合格者数	1	6	1	1	9
	うち大学院等 進学予定者	1	6	1	1	9
	進学決定率 (合格者数/進学 希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	進学先※	九州工業大学 大学院	豊橋技術科学 大学大学院(2) 早稲田大学大学院 九州工業大学大学院 九州大学大学院 奈良先端科学 技術大学院大学	九州工業大学 大学院	奈良先端科学 技術大学院大学	
内定状況	就職希望者数	2	2	1	9	14
	内定者数	2	2	1	9	14
	内定率 (内定者数/就職 希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	内定先企業名※ (県内) 県内に本社が ある企業				オキコ株式会社 沖縄県庁 沖縄県農業協同組合 (JAおきなわ) 沖縄ハム総合食品株 式会社 沖縄森永乳業株式会社 オリオンビール株式会 社	
		計0名 内定者に占める 割合 0%	計0名 内定者に占める 割合 0%	計0名 内定者に占める 割合 0%	計6名 内定者に占める 割合 67%	計6名 内定者に占める 割合 43%
内定先企業名※ (県外) 県外に本社が ある企業	アイシン精 機株式会社 株式会社小松 製作所	株式会社エヌエ イテクノロジー 富士電機株 式会社	株式会社ドヴ ア	沢井製薬株式会 社 大同薬品工業 株式会社		
	計2名 内定者に占める 割合 100%	計2名 内定者に占める 割合 100%	計1名 内定者に占める 割合 100%	計3名 内定者に占める 割合 33%	計8名 内定者に占める 割合 57%	

※同一企業に複数名の学生が内々定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。



専攻科長
三枝 隆裕

専攻科の第4期生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。本科1年に入学したての初々しい時期からの7年間、長い間に心身ともに成長し、沖縄高専の教育課程を無事に全て修了致しました。振り返ると、勉学、部活、高専祭などのイベント、インターンシップ、学会発表、学位小論文試験など多くの思い出が脳裏に浮かんでくることと思います。

さて、沖縄高専の1期生から3期生まで、学位を100%取得しています。4期生につきましても全員が学位取得した旨の連絡を受け、心からお喜び申し上げます。

この学位授与機構による学位審査の方式が、平成26年度入学の専攻科生から変わろうとしています。現在の学修成果レポートの提出と小論文試験がなくなり、代わりに特別研究に相当する「学修総まとめ科目」を履修し、学位授与機構にその履修計画書を専攻科2年次の10月に提出後、成果の要旨を翌3月に提出するという方式です。言わば、各学生が学位授与に値するかの判定を各高専に委ね、学位授与機構は、確認・認証作業を行うというものです。小論文試験がなくなり、論文作成期間が半年延びますが、「学修総まとめ科目」の履修計画書に基盤となる学修全体の履歴を述べる必要性や専攻科での修得単位数の増加も有り、一長一短があります。また、前提条件として、新方式を採用する専攻科は、学位授与機構の事前審査を受け、合格しなければなりません。沖縄高専の専攻科では、学位審査で不合格者を出さないためにも、平成26年度入学の専攻科生から新方式への移行を進めることにしております。

さて、本校の専攻科は、7年間の継続的教育を生かし、複合的・実践的なカリキュラム及びより高度で専門的なカリキュラムを通じ、複合的な専門性を備えた創造的実践的な課題解決型の技術者を育成することを目指しています。これらの教育による実績は、優れた進学先や就職先として現われております。

本校における今年修了予定の4期生23名の進路希望は、進学9名と就職14名であり、進路決定率100%となっています。進学先としては、専攻科推薦枠も活かして、九州大、早稲田大、奈良先端科技大などへの大学院進学が達成され、就職でも、専攻科推薦枠も活用し、富士電機、沢井製薬、オリオンビールなど県内外の有名企業の専門を生かせる職種へ内定できています。

専攻科のメリットとしては、大学より学費が安く、より高度な専門性を本科から継続的に同じ仲間と磨け、大学院に推薦入学で入れ、学位が取得できる等が挙げられます。本科の皆さんには、専攻科の魅力と利点を理解して頂き、多くの志願者を期待しております。

最後に、このような優れた専攻科を修了された皆さんの幸多き人生を心から祈念いたします。

機械システム工学コース



2学年
富山 嘉之

裏庭からこんにちは富山嘉之です。修了を間近に控えた私ですが、いまなお正念場なのです。

振り返ると正念場の連続でした。最も大きな正念場だったのはやはりバイク爆睡事件でしょう。生きてて良かったし、本当に親には、一生いや二生三生分の苦勞と心配をかけました。一時は学校も辞めようと考えたけれど、多くの仲間を支えられ、多くの先生方に助けられてなんとかやってこれました。同じ場所で寝て、同じ飯を食って、一緒に風呂に入って、同じことで笑ってられる。あいつらがいてこそ自分の自分だと心底思います。しかしこんなことを言うと気持ち悪がられるのが目に浮かぶし、柄じゃないのでどうか私の同期に回らないことを願っています。

ありがちなことばかり書いてしまい、自分でもこんなはずじゃないと思っているのですが、要するにすーぱー楽しかったということです。後輩の皆さん Terry の言葉を信じて、出口は常に真正面、裏庭独走最前線で学生生活ブチアゲヤーマンでいてください。先生方、鉛筆の持ち方から論文の書き方までいろいろ教えてくださってありがとうございました。最後に高専のゴッドファーザーこと眞喜志御兄弟に土下座もんの感謝を捧げます。

電子通信システム工学コース



2学年
前蔵 貴行

本科、専攻科を含め7年間という小学校よりも長い期間を沖縄高専で過ごしました。この7年間何をしていたかというほとんど部活と研究しかしていなかったような気がします。というのも沖縄高専のまわりは何もないので部活と研究しかなかったというのが本音です。そんな訳で毎日、部活に打ち込むことができ、平日は授業が終わってすぐ、休日是一日中テニスばかりしていたので、気づけば3年次には部長になっていました。また、高専大会では、本科1年から5年まで選手として出場することができ、4年次には九州地区大会で準優勝など、非常に良い思い出になっています。研究面では、5年生のときから学会発表にも出させてもらいました。初めての学会では非常に緊張しましたが、学年が上がるとともに学会発表にもなれていき、最近では、その地方の名産品を楽しんだりなど、だいぶ余裕が出てきました。とは言っても現在、作成中の国際学会の発表資料はすべて英語なので、毎日、四苦八苦しています。常々、先生方もおっしゃっているようにやっぱり英語は大事ですね。専攻科の2年間は研究、学会発表、学位試験、大学院試験と密度が濃い2年間でしたが、専攻科に進学してよかったと思っています。これから、大学院へ進学しますが、沖縄高専で学んだ知識や研究の仕方などを生かして、さらに成長していきたいと思います！最後になりますが、これまでお世話になった先生方、辛いときに助けてくれた仲間たちに感謝いたします。

情報工学コース



2学年
仲栄 真伸

専攻科4期の本科3期の仲栄真伸です！！はい、本科4期の皆さん私が登場してすいません(笑) 研究生の1年も含めると、私がここ沖縄高専に滞在すること8年、、、非常に長かった！！なんせ、23年久辺ですから(笑) ですが、はっきり言えます。「沖縄高専に来てよかった！！」と。今回は専攻科卒ということもあるので、専攻科について語りたと思います。

専攻科…一言で言うと出会いの場でした(け、研究もそうだけど。笑)！まず専攻科4期の皆さんに出会いました。面識のない私をすぐ受け入れてくれて、今では My Best Friends です！これからもよろしくお願いします！！先生に出会いました。もちろん前から授業を受けて知ってはいましたが、人数が少ないということもあり1対1で授業をすることも…。色々話を聞いて私的にかなり近づけた気がします(笑) お世話になりました！！野球部に出会いました。縁があり、私は野球部監督をさせていただきました。本当にいい子達で常に自分が学ばされました。「なぜ…どうしたら…どうやったら…」と原因を突き止め、うまく改善するにはどうしたらいいのかと、考え方の部分で考え方が変わっていきました。これまでやってこられたのは、サポートしてくださった皆様がいたからこそだと思います。私は、いつまでも沖縄高専野球部を応援して

います！ガチで目指せ甲子園！卒業生の皆様も高専野球部の応援よろしくお願いします！この他にも、沢山の先輩・他学科の先生・外部の方々、、、数え切れないくらいのお会いがありこの卒では収まりきりません！本当にお世話になりました！

そして、研究生1年の時の暗黒時代(笑)があったからこそ、これだけはわかります。「人は一人では生きていけない。」と。だからこそ、この専攻科での出会いは大きかったですし、これからの力にもなっていくと確信しています。本当に言葉では表せられない感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

これから、自分の…人の…社会の…力になれるように日々精進あるのみです！！そして、楽しむ！！これが一番です！！では、皆さんに幸あらんことを…。

生物資源工学コース



2学年
島袋 今日子

私は専攻科の2年間で、学業面でも精神面でも大きく成長できました。

専攻科は、本科と比べても研究に重点を置くためストレスがかかりました。そんな中、私はよく“毎日笑顔でいれる秘訣”を聞かれます。そこで、私は真顔でこう答えます。

笑顔こそが、私の“お・も・て・な・し”

こんな私のギャグで、爆笑に包まれる専攻科の雰囲気大好きです。

そして“毎日笑顔でいれる秘訣”それは、最高の仲間にも囲まれることだと思っています。いつでも周りに仲間がいてくれるお陰で、笑顔になれるし、みんなに笑顔になってほしいと思えます。

人は、成長するためにたくさんの壁が待ち構えています。私は、高専生活の中でいくつかの壁に直面しました。研究や試験など、今思えばどれも小さな壁ですが、当時の私にとってとても大きな壁に思えました。そうした中で「私1人がツライ」と思ったことはなく、きっと私の周りのみんなもそう感じていると思います。それは、先生方や、先輩・後輩といった周りの方々のサポートがあったからです。だからこそ専攻科の2年間もみんなでも乗り越えていくことができました。平山先生をはじめ多くの先生方、先輩・後輩達に心から感謝しています。そして、特別研究を進めるにあたり、たくさんのアドバイスをくれた、やすま、ふみや、まさつぐ、えいと、しょうた、棚しょう、ゆきとし、私が落ち込んだ時に助けてくれた、りゅうき、はじめ、専攻科のみんな、いつも騒がしい私を鋭いツッコミで無言にさせたかわいい後輩達に感謝しています。こんな素敵な仲間にも囲まれている私は、世界で一番の幸せ者です。共に成長してきた仲間との別れは寂しいですが、これから訪れる新たな出会いに胸がいっぱいです。

まだまだ未熟者ですが、沖縄県で活躍する女性になれるようこれからも精進致します。沖縄高専のみなさんも、最高の仲間がいることを忘れずに日々を過ごしてほしいです。



4 学年
仲尾 錦

こんにちは。第9回高専祭実行委員長を務めました、生物資源工学科4年の仲尾錦です。

沖縄高専では去る11月9・10日の2日間に「この祭り、革新的。」のテーマの下に第9回高専祭が開始されました。

今年度のテーマには、10周年を迎える高専において高専祭も例年とは違う新たなことを始めていきたいという意味が込められています。

高専祭当日を迎えるまでの過程で、新たなことを始めたいということで高専祭実行委員会は5月から活動をはじめて学生を引っ張り、プログラムの組み合わせ、各クラスの出し物対応、器具の徴収など高専祭の運営を行ってきました。屋台設営の規定改正や台風による翌日学校など様々な壁がありましたが、当日は高専祭来場客数も多く来ていただき楽しんでいただけたと思います。また、翌日学校ということもありましたが皆様の協力による無事に全プログラムを終わらせることができました。

私自身、高専祭実行委員長としては大変力不足であったのですが半年頑張ってくれたが実行員の仲間や教職員の方々、助けられて高専祭を終えることができ、達成感とともに高専祭が無事に終えることができ嬉しく思っております。

最後に、この高専祭を成功したことにあたり高専祭実行委員を初めとした学生全員や影で支えて下さった教職員の皆様、スポンサーとして高専祭の運営にご協力いただいた企業の方々、辺野古住民の方々、来場者の皆様、その他高専祭に携わって下さった全ての方にこの場をかりて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

来年度以降も高専祭を今年度以上に盛り上げられるよう、後輩が中心となって頑張っていきますので、これからも高専祭を楽しみにしててください。



=沖縄高専= 創立10周年記念式典



式辞を述べる伊東沖縄高専校長

沖縄高専では9月21日、名護市民会館大ホールにおいて沖縄高専創立10周年記念式典を挙行了。式典には、教職員に在校生、同窓生、そして多数の来賓からなる約千百名が出席し、同校の節目を祝いました。

伊東繁校長は式辞で同校の歩みを振り返り「国内外で活躍する技術者の育成、地域や産業界への貢献に努めてきた。今後も未来の科学技術や地域社会を担う人材の育成、産業界の振興と発展に貢献していく」と決意を述べました。

続いて、下村文部科学大臣（代読：布村高等教育局長）、小畑国立高等専門学校機構理事長、島尻内閣府大臣政務官、仲井眞沖縄県知事（代読：高良副知事）、大城琉球大学長、稲嶺名護市長の6氏が祝辞を述べた。また、記念事業として奨学支援基金を設立。2年次から5年次までの成績優秀者16人に目録が授与されました。

式典後には、三井住友銀行取締役会長で経済同友会教育改革委員会の北山禎介委員長を講師に迎え、記念講演会が開催され、「未来を創るフロントランナーに—基礎力を身に付けたイノベーションの担い手に—」と題して、将来を担う在校生に熱いエールが送られた。

講演会后、会場を名護市民会館中ホールに移し、約二百名の出席者の下、記念祝賀会が開催され、糸村昌祐初代校長が乾杯の首領を取り、歓談中は、会場の至るところで来賓・高専OB・教職員らが大いに交流を深めていた。また、同校在校生による獅子舞や沖縄伝統芸能のエイサーが披露されるなど、更なる盛り上がりを見せ、盛況の内にお開きとなった。



奨学金の目録授与



北山禎介氏による記念講演



～ロボット製作委員会～

情報通信システム工学科 3 学年 玉城 大樹



自分がロボット製作委員会の存在を知ったのが入学前に沖縄高専について調べた時でした。中学生の時の私には何が楽しいのか？何を主として活動しているのかわかりませんでした。そのような委員会に入ろうと思ったきっかけは、友達でした。1年生の時に部活もせずだらだらと過ごしていた私は、せっかく高専に入学できたのだから他の高校ではできないことができると考え、2年生だった2012年に入部しました。そのときに、初めて高専ロボットコンテストというのを知ったのです。

まず、入部して初めに抱いた感想としてとても個性的な先輩たちが多いということです。高専自体に個性的な人が多いですが、そのなかでも色の強い人たちの集まりだと感じました。そして1人1人の能力が高く、こんな先輩たちについていけるのか？という疑問を持ったこともありましたが、そのような先輩たちと一緒に活動することによって自分も成長できると思いました。

自分が入部した2012年にはロボットの部品の加工を行い、チームの一員として活動しました。そして、自分が作った部品が使われているロボットが動いたときにはとても感動したことを今でも覚えています。しかし、2012年度は1歩及ばず、地区大会の2回戦で負けてしまい、全国大会へは行くことができませんでした。チームとして一丸となって作り上げたロボットが試合に負けたときはとても悔しいものでした。

2013年の私は2012年とは違い、ロボットに乗せる回路やロボットの動きを決めるプログラムの作成をしました。ロボットを部品などの外側から見た時と回路やプログラムなどの内側から見たときと全然違うのだと感じました。1年間この活動に所属してきて大体のことはわかっていたつもりでしたが、まだ知らないことがたくさんあることをこの時に気づきました。そして、また一から知らないことを知ることから始めました。しかし、様々なことを知り全力を尽くした2013年でしたが、惜しくも1回戦で負けてしまいました。

そして2014年、私は部長としてこのロボット製作委員会をまとめる立場になりました。自分が今まで見てきた偉大な先輩たちの力を受け継ぎ、さらに強大なものにして今後の活動に繋げていかないといけません。自分の目標であった先輩たちを越えるロボットを作り全国優勝をするという夢を叶えられるように、努力していきます。



全国高等専門学校体育大会に参加して 一水泳部一

メディア情報工学科 2 学年 濱元 幸

2013年7月、熊本県で九州・沖縄地区高専大会（水泳競技）が行われました。女子50mバタフライ（2年：濱元 幸）が1位、女子100m自由形（2年：濱元 幸）が2位という成果をあげ、8月に秋田県で開催される全国高専大会に出場することになりました。今回、全国大会には出場できなかったものの、男子800m自由形（1年：島袋 歩）が5位、男子100m背泳ぎ（1年：島袋 歩）が6位といった、競争率の高い中、優秀な成績を残してくれました。

私は、100m自由形と50mバタフライに出場しましたが、100m自由形は予選落ち、50mバタフライは予選通過・決勝6位と、去年よりタイムが上がったものの順位が落ちてしまいました。

水泳部は3年連続全国大会に出場しています。私は昨年度も全国大会に出場したこともあり、私のことがわかるとあいさつしてくれたり、『頑張って』と声をかけてくれたりと、九州高専の方々とは、より交流を深めることが出来ました。また今年も九州チームで円陣を組んだり、1つになって応援したりと、とても団結力があって感動しました。

このような素晴らしい体験ができたのは、全国大会に伴い資金支援をして下さった保護者の皆様、教職員の皆様、学生会の皆様、毎日の練習をサポートしてくれた顧問教員の方々のおかげです。心よりお礼申し上げます。

これからも皆様からのサポートを忘れずに、練習に励み、もっと良い成績を残したいと思います。どうぞ今後とも水泳部をよろしくお願致します。



『2013 ICT 委員会の活動』

メディア情報工学科 3 学年 西原 希咲

私は、ICT 委員会の委員長の西原希咲です。ICT 委員会とは放課後にあつまってプログラミングをする部活です！わたし達 ICT の活動を紹介します。ICT 委員会の部員は年間をとおして様々なプログラミングの大会に出場します。2013 年に ICT 部員が参加した大会とその成績を紹介します。

・全国高等専門学校 第 24 回 プログラミングコンテスト

この大会は通称プロコンとよばれる全国の高専生が参加できる大会です。プロコンには部門が 3 つありその内の 2 つ自由部門、競技部門の本選に出場しました。

自由部門 -- 自由なテーマで独創的な作品を作る 本選への倍率は 3.7 倍

競技部門 -- 与えられたルールによる対抗戦

ICT 委員会は自由部門で特別賞（全国 3 位）競技部門では 2 回戦出場を果たしました。

・第 13 回日本情報オリンピック (JOI)

JOI は日本の高校生以下の生徒を対象にプログラミング力を競う大会です。インターネットで 998 人が参加した予選を通過し、ICT 委員会から 1 年生と 2 年生の 2 人が東京での本選に出場しました！

・第 7 回アジア太平洋情報オリンピック (APIO)

この大会はアジア中の高校生以下を対象の国際的なプログラミング大会です。ICT 委員会の 3 年生が銅メダルを獲得しました！

・2013 パソコン甲子園

パソコン甲子園は全国の高校生以下が対象の大会です。部門はプログラミング部門とモバイル部門の 2 つがあります。

プログラミング部門 -- 難易度の様々なプログラミングの問題を解き競う部門

モバイル部門 -- テーマにあわせた Android スマートフォンのアプリを開発する部門

プログラミング部門で 3 年生と 1 年生 2 人組のチームが全国 5 位を取り、モバイル部門は本戦出場しました。

・うちなー ICT ビジネスプラン発表会

沖縄の高専生と大学生がビジネスプランについてプレゼンアイデアを競う大会です。優勝すると東京で行われる起業家甲子園という全国大会への出場権が得られます。

この大会には、3 年生と 2 年生と 1 年生の 3 人チームで出場し優勝し、3 月の起業家甲子園への出場権を獲得しました！

これから高専に入学を考えている中学生のみならずには、高専に入学したらぜひ様々な大会に挑戦してもらいたいです。

普段出会えない人との出会いや自分自身の専門分野、精神面での成長、どちらも得られる大きなチャンスです！



パソコン甲子園 2013 モバイル部門



パソコン甲子園 2013 プログラミング部門



平成 25 年度プログラミングコンテスト

第3回高校生バイオサミットに参加して

生物資源工学科 3 学年 宮里 春奈

2013 年 8 月、私達、生物資源研究会は第 3 回高校生バイオサミットに参加し、「シークワサーの機能性解析」というテーマでポスター発表を行いました。研究内容としては、シークワサーの高い抗酸化能や美白効果を生かした化粧品への応用と、冬にかけてオレンジ色に変色し、市場に出回らなくなったシークワサーに付加価値を見出すことを目標に調査を行いました。

チームで協力して実験を重ね、ポスターデザインも細部までこだわり、発表方法にも工夫を盛り込みました。発表当日は緊張からハプニングもありましたが、チームで支えあって乗り越え、沢山の収穫を得られました。会場では多くの方々に興味を持って頂き、沖縄の生物資源の魅力を広く伝えることができました。今回、成果が実って、農林水産大臣賞、審査員特別賞、優秀指導者賞を受賞することができました。このような成果を残すことができたのは懇切丁寧にご指導下さった先生方や、共同研究先の勝山シークワサー様、ご支援頂いた後援会の皆様、名護市の皆様のおかげです。メンバー同心より感謝申し上げます。今後も生物資源研究会では「沖縄の生物資源を有効活用すること」を目標に活動を行って参ります。どうぞ、今後とも生物資源研究会を宜しくお願い致します。



第48回全国高等専門学校体育大会出場にあたってー女子バスケットボール部ー

生物資源工学科 5 学年 宮城 李夢

平成 25 年 8 月 31 日、9 月 1 日に青森県で開催された第 48 回全国高等学校体育大会バスケットボール競技に九州沖縄地区代表として 3 連続出場しました。1 日目第 1 回戦の対長野高専では、相手チームの身長に圧倒されつつも、目指していた“走るバスケット”で粘ることができ、60 対 34 で勝利しました。2 日目第 2 回戦の八戸高専は去年の準決勝戦で負けた相手でした。1 度対戦したことがある八戸高専ですが、3 クォーターで大差をつけられ 47 対 79 で負けてしまいました。

私が“沖縄高専女子バスケットボール部 高専大会九州・沖縄地区 4 連覇”と知ったのは中学 3 年生のことです。当時バスケットボール部だった私は、「とても上手い先輩達が沢山いるんだ!」と思ったのを覚えています。高専に入学して、先輩達に憧れバスケットボール部に所属、5 年間高専大会に出場しました。高専大会に至るまでに、先輩方と対立してしまったり、後輩の指導に悩んだり、イライラしてしまい友人にあたってしまうこともありました。また、部員の怪我にも悩まされ、出場できなかったチームメイトもいました。本当に悩まされたのはコーチである伊波先生だと思えます。

今回、全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技 3 位となり、去年より良い結果を残すことが出来ませんでした。しかし、九州大会で戦ってきた 9 チームの思いと、応援してくれる皆様の思いを試合でぶつけることができ、思いっきりプレー

できました。5 年間女子バスケットボール部に所属し、学んだことは大会で勝利し結果を残すことではなく、その大会に出場するまでに支えてくれた人達のありがたみです。私達が全国大会へ出場し結果を残せたのも、指導教員ならびに応援して下さった先生方、保護者、卒業生、在校生の皆さん、そして練習を共にした男子バスケットボール部の力があつたからこそだと思っています。全国派遣に伴い、募金活動などの資金面にご協力して下さった卒業生、在校生、先生方に深く感謝申し上げます。

沢山のことに笑い、騒ぎ、悩み、時には泣いてしまう沖縄高専女子バスケットボール部ですが、感謝の気持ちを持ち活動していきますので、これからもよろしくお祈りします。



学生相談室の一年間を振り返って

学生相談室長 西村 篤

平成 25 年度、本校では、スクールカウンセラー（臨床心理士）による相談時間を、昨年度までの週 2 日・計 6 時間から、週 3 日・計 11 時間と約 2 倍に増やし、学生の相談だけでなく、教職員や保護者からの相談も増えました。今年度から年 5 回に拡充して実施した「いのちをつなぐセミナー」には毎回 10 名程度の参加者がありました。また、今年度初めて実施した全学的な精神健康調査でストレス値の高かった学生への結果説明から相談に繋がったケースもあり、校内の相談援助の業務にはまだまだ潜在的なニーズがあるということが再確認されました。しかしながら、様々な事例に関わる中で、本当に困っている学生は誰にも相談できていない、ということ益々強く感じています。

次年度から、学生相談室は「教育福祉推進室」に改組され、近い将来にセンターとしてその機能を十分果たすことができるよう段階的に業務が拡充される予定です。教育における福祉の推進は、本校学生が、正課教育で学ぶ専門的な知識や技術を活かしつつ、卒業後に社会の福祉ならびに人類の福祉に貢献できる自立した社会人に成長するために不可欠な取り組みです。学校教育の制度の網の目からこぼれ落ちる学生がないようにすることはもちろんですが、一人一人の学生を、出席状況や試験の点数だけで評価するのではなく、これまで育ってきたそれぞれの歴史と卒業後のそれぞれの人生のある一人の人間として捉え、学校として、学生の人的な成長を評価し促すことができるよう、学校全体の環境を整えるための働きかけを行うことも、重要な取り組みの一つであると考えます。

この取り組みには、本学教職員が教育に対する正しい知識と高い理想を持ちながら地道な実践・研鑽を積み重ねる努力はもとより、学生の主体的関わり、保護者の前向きな理解と協力、そして地域との連携が不可欠です。学校を、就職・進学資格を得るためのプロセスとしてだけでなく、学生の人的な成長の場として捉え、学校がそのために役割を果たすことができるよう、保護者、地域の関係者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

来て、見で、聞いて、 開こう、 世界への扉！

「東アジア経済圏グローバル技術者育成共同教育プログラム」の実施報告

国立高等専門学校機構の平成25年度特別教育研究経費「企業技術者等活用経費」の支援のもとで、沖縄高専で平成25年10月～1月に実施した「東アジア経済圏グローバル技術者育成共同教育プログラム」についてご報告いたします。

本プログラムの趣旨は次の通りです。今後50年間で、世界的に最も経済成長が著しいと予想される東アジア経済圏において、電子産業を筆頭に韓国・中国メーカの躍進は著しい。他方、日本の電機メーカの競争力は低下し、日本経済の停滞・衰退の象徴とされています。日本の電機メーカが独走していた頃は、内なるものづくりに専念すれば勝ち組になれたが、これからは、東アジアで台頭する韓国・中国・インドなどが注力する電子・情報通信技術分野の企業・技術者と競合・協調したグローバルなものづくりに大きく方向転換しなければなりません。そのために、早期にグローバルな視点と思考を有する、ものづくり技術者を育成する必要があります。また、東アジアの国々では女性技術者の活躍も目覚ましい。従って、今後の日本経済再生の鍵となる、①グローバルに活躍できる技術者の育成、②グローバルな電子・情報通信技術者の育成、

③女性技術者の育成のための教育プログラムをグローバル企業の技術者と連携して構築し実施します。

本プログラムの実施にあたっては、(株)産業タイムズ社、日本電子デバイス産業協会の後援のもと、(株)東芝、などから、海外経験豊富な企業人の多大なご協力を頂きました。具体的には、東アジア市場動向、ビジネスモデル、海外企業のオペレーションと戦略、競争力のある製品開発、海外異文化理解、実践的な語学力向上、各種英文ドキュメンテーション作成など、様々な分野で17名の講師による19件の講義・講演を企画しました。講義資料は全て英文または日本文併記で作成しました。12月の講演会には齊藤昇三 (株)東芝前副社長、泉谷渉 産業タイムズ社社長、納見正昭 元東芝アメリカ社、欧州社社長も来校し、グローバル人材育成の重要性について貴重なご講演を頂きました。また、本プログラムの講師陣は4割を女性講師が占め、沖縄高専男女共同参画推進部会の共催という位置づけで女性講師の講演を開催しました。

聴講した学生は本科2年生から専攻科生まで幅広い学年にわたりました。普段聞けない最新の技術動向や海外の異文化や慣習、外国の人との交流の仕方など、貴重な体験の知識を学びました。教材が英文で作成されているため、シンガポールの Temasek Polytechnic から沖縄高専に短期留学で滞在していた学生にも好評で、留学生は毎回参加しました。また、県外からの参加者もありました。しかし、本教育プログラムに最も関心を寄せていたのは講師の方々で、この講義・講演を全て聴きたい、と感想を洩らす方が少なからずいました。沖縄高専において、海外経験豊富な企業人にとっても学びたい実践的で有益なグローバル技術者育成プログラムを企画・実施することができたのではないかと考えております。

(国際交流委員会委員長 知念幸勇)

地域連携 推進センター

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

本年度は月1回の技術相談会及び企業説明会の開催や共同研究、受託研究、受託試験、技術相談の受け入れ、さらに、各種展示会への出展（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、知的財産セミナー等を実施し、産業界との交流を深めました。

また、地域社会との連携・交流の推進や教育・研究の充実ならびに人材育成に取り組んでおり、本年度は、うるま市の小中学校生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業の実施や、浦添市立前田小学校での出前授業も実施し沖縄高専の教育研究内容を地域へ発信しました。



▲ 定期企業説明会の一コマ



◀ 浦添市立前田小学校での出前授業の一コマ



▶ うるま市内の中学生を対象とした体験授業の一コマ



◀ 沖縄の産業まつり「子ども科学体験教室」の一コマ

学生会より



平成 25 年度
学生会会長
吉田 睦

平成 25 年度学生会長の吉田睦です。新入生が期待を膨らませてくる入学式から始まり、5 年生が最後に集まる卒業式まで会長として携えることを心から嬉しく思います。

今年度新たに行ったこととしては、体育祭に「応援団」を有志で募集し、踊り等のパフォーマンス等を披露しました。その成果もあって体育祭を例年以上に一体感のあるものにすることができました。さらに、文化競技大会に「歌ウマ! 決定戦」・1 月にはパフォーマンス大会等を行ってきました。先輩方が創り上げてきた伝統をさらに良いものにしようと学生会一同精進して参りました。

学生会がこうして色々な行事を運営できたのも後援会の皆様・先生方・学生の協力があって成し得たことです。心より感謝申し上げます。

結びに、今年度卒業・専攻科修了される皆様のご活躍を心よりお祈り致しております。



体育祭



学生会会議



高専祭

寮生会より



学生寮
女子寮長
島袋 友美

皆さんこんにちは。平成 25 年度女子寮長を務めております、生物資源工学科 4 学年の島袋友美と申します。

今年度も学生寮委員会では、住みやすい寮づくりのためにさまざまなことに取り組みました。指導寮生会では、新入生を中心とした寮生への指導を行いました。保安委員会では、避難訓練の開催など、寮生の安全を守るための活動を行いました。保健衛生委員会では、毎月寮食アンケートを実施し、寮生の食事が楽しくなるための工夫をしました。整美委員会では、月末の大清掃を企画し、寮の美化を務めました。企画広報委員会は、夏と冬に寮祭を開催し、抽選会や出し物を多くの寮生が楽しみました。会計局では、寮生会費の管理を行いました。ネットワーク委員会では、Web 広報誌の作成に取り組みました。執行部では、9 月に香川高専と新居浜高専の 2 高専に寮視察に伺いました。その際に取り入れたいと感じたことは、役員会で話し合いを持ち、少しでも住みよい寮にするために考えを重ねました。

寮生会を運営する上でお世話になった寮務主事、寮事務の方々、先生方にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

今年度は学生寮が 10 周年を迎える節目の年でもありました。沖縄高専の学生寮のシンボルとして、寮の門には守り神のシーサーが設置されました。今後、たくさんの寮生を見守ってくれることと思います。

最後になりますが、沖縄高専学生寮がより良い学生寮になるため、これからも寮生会一同全力を尽くして参ります。今後とも、学生寮をよろしく願います。

後援会会長挨拶



後援会 会長
大湊 安典

今春、沖縄工業高校専門学校をご卒業及び修了される学生の皆様、並びに保護者の皆様おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

平成 25 年度も学業とともに、バイオサミット in 鶴岡における農林水産大臣賞やスポーツなどさまざまな分野において活動し、沖縄県内はもとより全国に沖縄高専を広く発信した功績は大きく、これも学生一人ひとりが真面目に一生懸命に仲間と共に何事にも積極的に関わった結果だと思えます。また、何よりもご指導を下された先生方、学生に関わる方々のお力だと思えます。

さて、昨年は沖縄高専 10 周年の記念式典・講演会、記念祝賀会が行われ、沖縄高専創立 10 年の節目を祝う年でありました。私たち沖縄高専後援会も 10 周年記念の行事など、各活動に深く関わらせていただき学生を支援することができました。

これからも沖縄高専後援会が様々な活動に多くかかわれるよう保護者の皆様のご支持とご声援をいただきご協力を賜りますようお願い申し上げます。

保健室より

早いもので1年が終わります。保健室では、怪我や体調不良時の対応、相談等を受けています。学生生活を楽しむために日頃の体調管理も重要になってきます。体調が悪いと思うように体が動かずに怪我をし、勉強にも身が入らないなどが起こることもあります。保健室利用の理由を確認してみると「夜遅くまで起きていて体調を崩したかも」と話すことがあります。起きていて体調を崩すことは良いことではありません。生活習慣を見直してみませんか。そして、新年度に備え体調を整えましょう。

【表】は約1年間の保健室の利用状況です。(8月、9月は夏季休業中の為、減少しています。)今年度はインフルエンザにより学級閉鎖が1学級ありました。その後は罹患者はいるが学級閉鎖はありません。インフルエンザの感染だけでなくその他の感染症(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎など)にも注意が必要です。予防接種も感染予防の1つです。未接種、罹っていないのであればできるだけ予防接種を受けるようにしましょう。



平成25年4月～平成26年1月保健室利用延人数(学生相談室含む)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
合計	196	207	176	202	35	66	251	214	182	219

平成26年度 学生募集結果一覧

◆推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	18	0	16	0
情報通信システム工学科	10	5	10	5
メディア情報工学科	12	8	8	5
生物資源工学科	9	18	2	14
男女別計	49	31	36	24
合計	80		60	

◆専門実習(自己推薦)による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	23	1	6	0
合計	24		6	

◆学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	42	0	25	0
情報通信システム工学科	27	3	23	4
メディア情報工学科	34	10	18	5
生物資源工学科	30	13	16	9
男女別計	133	26	82	18
合計	159		100	



■ 平成26年度(前期)行事予定表 ■

4月		5月		6月		7月		8月		9月			
1	火	在学生開寮	1	木	専攻科学力選抜願書受付	1	日	1	金	(前期期末試験)	1	月	
2	水	入学式 新入生入寮 入寮式・開寮式・対面式	2	金		2	月	2	土		2	火	
3	木	オリエンテーション 健康診断、課題確認試験(数学・本科1年) 教科書販売、新入生のノートPC設定会 LHR・校長講話(3年生)	3	土	憲法記念日	3	火	3	日		3	水	
4	金	オリエンテーション 健康診断、教科書販売、新入生のノートPC設定会	4	日	みどりの日	4	水	4	月		4	木	
5	土		5	月	こどもの日	5	木	5	火		5	金	
6	日		6	火	振替休日	6	金	6	水	学生寮居室点検・清掃 試験返却日	6	土	
7	月	全学年授業開始 専攻科推薦選抜願書受付	7	水	キャリア教育センター 長講話(1年生)	7	土	7	木	学生寮居室点検・清掃	7	日	県総体新人大会(水泳)
8	火		8	木	第1回定期学生会総会	8	日	8	金	学生寮居室点検・清掃 前期末全校集会 旧盆	8	月	
9	水	交通安全講習会(2年生以下)	9	金	専攻科推薦選抜入学 確約書提出期限	9	月	9	土	閉寮式	9	火	
10	木	開校記念日(授業日)	10	土	高校総体(県高校総体自 転車競技) 地域清掃(学生会主催)	10	火	10	日	閉寮	10	水	
11	金		11	日		11	水	11	月	体育祭の振替休日 完全閉寮 夏季一斉休業	11	木	
12	土		12	月		12	木	12	火	夏季休業	12	金	
13	日		13	火		13	金	13	水	夏季一斉休業	13	土	
14	月	学生寮避難訓練	14	水	性に関する講演会(2年生) 精神健康調査(本科1年生)	14	土	14	木	夏季一斉休業	14	日	
15	火	部活動紹介(学生会主催) 平成26年度沖縄高専産学連携 協力会理会・総会・情報交換会	15	木		15	日	15	金	夏季一斉休業	15	月	敬老の日
16	水	交通安全講習会(3年生以上) カウンセラー講話(2年生)	16	金		16	月	16	土		16	火	
17	木		17	土	専攻科学力選抜試験	17	火	17	日		17	水	
18	金		18	日		18	水	18	月	臨時休業日 九州・沖縄地区高専体育大会 編入学試験願書受付(予定)	18	木	
19	土	専攻科推薦選抜試験	19	月		19	木	19	火		19	金	県総体新人大会(陸上)
20	日		20	火		20	金	20	水		20	土	
21	月		21	水	学生寮月例大掃除 性に関する講演会(1年生)	21	土	21	木		21	日	開寮
22	火		22	木	よろず相談(予定)	22	日	22	金	編入学試験日(出願が あった場合)	22	月	
23	水	学内合同及びインターシップ企業説 明会 カウンセラー講話(1年生) 学生寮月例大掃除	23	金	専攻科学力選抜結果通知	23	月	23	土		23	火	開寮式 秋分の日
24	木	専攻科推薦選抜結果通知	24	土	高校総体(卓球 石垣)	24	火	24	日		24	水	後期授業開始
25	金		25	日		25	水	25	月		25	木	
26	土		26	月		26	木	26	火		26	金	
27	日		27	火		27	金	27	水		27	土	
28	月		28	水		28	土	28	木		28	日	
29	火	昭和の日 体育祭(登校日)	29	木	中間試験 (複数同時実施科目)	29	日	29	金	編入学試験合格発表 (予定)	29	月	専攻科学力選抜入学確 約書提出期限
30	水	火曜日の授業	30	金	県高校総体(総合開会式)	30	月	30	土		30	火	
			31	土	県高校総体(~4日)			31	日				
備考		平成26年度沖縄高専産学連携協 力会理会・総会・情報交換会開催 (4/15)那覇口ワヅルホテル ・蔵書検索講習会(1年) ・図書館利用講習会(2年)			寮生総会(寮生会) ・5年生向け文献検索講習会					校内美化清掃(学生会主催)			
					・ビジネスマナー講習会(4年生) ・メイクアップセミナー(4年生) ・校内美化清掃(学生会主催) ・交通安全月間(学生会主催)								